

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①校内授業研や小中一貫ブロック授業研において積極的に授業を公開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指す。②小中・各学年における分析チャートや生徒・保護者による授業評価を活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を行う。	①コロナ禍で、限られた範囲や中止を余儀なくされ、9年間で育てる子ども像を意識した研修が計画通りには実施できなかった。②授業参観等が実施できなかったが、生徒・保護者による授業評価を活用して授業改善を行い、学習指導要領改訂に向けた課題を共有した。	B
豊かな心	①子ども会議のテーマを基に生徒会による「あいさつ運動」をさらに浸透させるとともに、確かな人権感覚・意識の向上を図るために人権作文・人権標語作りを全校で取り組む。よりブロック内での推進を図る。②体験学習や地域行事を通して、思いやり心や公共心を育成し、社会の一員としての自覚を高める。	①ブロック内のリモート等による子ども会議を実施し、5校が幟を制作し、「あいさつ運動」等の啓発を図った。道徳や人権教育を通し、自己を深く見つめ、互いの違いを認め、より良く生きようとする生きる力の向上を図った。②コロナ禍で、多くの地域行事が中止となり、地域活動が行えなかった。	B
健やかな体	①新体力テストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図る。また、健康や安全、環境について意図的・計画的に理解を深め、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。②学校生活以外でも小中ブロック交流や地域行事等を通して、運動に親しむ資質や能力を育てる。	①新体力テストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図った。②新型コロナウイルス感染拡大防止対策を通して、健康や安全、環境について、理解を深めるために学級・保健指導を行った。③小中ブロック交流や地域等での交流を一切見合わせた。	A
生徒指導	①YPアセスメント等を活用し、生徒理解を深める研修を行うとともに相談活動を充実させ、生徒に寄り添った信頼関係の構築を図る。②保護者・地域・関係機関と連携するとともに職員間の報告・連絡・相談を密にし、問題の早期発見・対応に取り組む。	①YPアセスメント研修を行い、相談活動の充実と生徒に寄り添った信頼関係の構築を図った。②生徒指導専任・指導部長を中心に保護者・地域・関係機関との連携を密にし、問題の早期発見・対応に取り組んだ。	B
特別支援教育	①特別支援教育委員会で支援を要する生徒に関する理解を深め、支援・指導計画による適切な支援を行う。また、SCや外部関係機関と連携を図り、より適切な支援方法を探る。②UDやインクルーシブ教育等に関する研修を行い、職員の理解を深める。	①特別支援教育委員会を中心に支援を要する生徒の理解を深め、支援計画・指導計画による適切な支援を行うとともにSCや外部関係機関と連携を密に図った。また、特別支援教室による不登校・学習支援の充実を図った。③UDやインクルーシブ教育等に関する校内研修を行い、職員の理解を深めた。	A
地域連携	①学校だよりを毎月発行し、積極的に学校の教育活動の様子を発信するとともに学校説明会やまち懇、学校HP等により中期学校経営方針等を含め教育活動への理解・協力を仰ぐ。まち懇から学校運営協議会への移行を進める。②区や連合町内会等の行事や地域活動、5校種連携事業に積極的に協力し、連携を深める。	①コロナ禍で、学校・学年だよりやHP、マチコミ等を利用し、教育活動やその変更等への理解・協力を図った。②連合町内会定例会に毎月出席し、コロナ禍での学校の状況を説明し、理解を図るとともに今後の連携・協力体制を深めることができた。③地域行事がすべて中止となった。	A
キャリア教育	①実生活や実社会と自分との関わりや人との出会い、人から学ぶことを大切にしながら「自分づくり教育（キャリア教育）」を推進する。②職業講話、職場体験、進路学習を通して自己の生き方を具体的、現実的なものとして考える態度を育てる。	①今年度はコロナ禍で、教室での講義中心の「キャリア教育」になってしまった。②職業講話、職場体験、異校種交流等がすべて中止となったが、自己の生き方を具体的、現実的なものとして考えながら、進路学習につなげることを意識し、寄り添った指導に取り組んだ。	B
いじめへの対応	①月2回のいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行い、再発防止に努める。②生徒理解研修を含め、年3回のいじめ防止研修を実施し、全教職員のいじめに対する意識を高めるとともに、生徒アンケートや教育相談により些細な変化をも見逃さない指導体制を構築する。	①「いじめ防止基本方針」の十分な確認を行い、いじめ防止対策委員会で、認知された案件の経過確認を丁寧に行い、再発防止に取り組んだ。②生徒理解研修等のいじめ防止研修を実施し、全教職員の意識向上を高め、指導体制の再確認を行い、未然防止、早期発見、早期対応に迅速に取り組んだ。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①学年組織と管理職による研修やミドルリーダーによる研修を実施し、経験の浅い職員の育成を図る。②校内研修や研究授業、小中一貫ブロック授業研等、外部指導者を活用し、意図的、計画的に実施するとともに打合せ等でも適宜情報を提供し、教師力の向上を目指す。③機能的かつ効果的な学校運営を目指し、さらに学校組織及び校務分掌の見直しを行う。	①代表者のみの参加とした縮小した形での研修を実施し、経験の浅い職員の育成を図った。②外部指導者を活用し、教師力・授業力向上を図るとともに新学習指導要領の理解を図り、実施準備を行った。③緑園義務教育学校開校を控えて、機能的・効果的な学校組織及び校務分掌の見直しを勧めている。	B
ブロック内評価後の気付き	小中連携事業の一貫として相互の授業研究会（年3回）が全て中止となったが、ブロック教務主任会、ブロック専任会等を通して相互理解がより深まり、充実させることができる。令和4年度、緑園義務教育学校開校に向け、岡中ブロック（岡中・岡小・上矢部小）の学校運営協議会の開設予定で、委員の人選や会則等の原案の作成がほぼ完成した。今後、ブロックでの授業研究会を含めた小中一貫教育のあり方を検討・準備を進めていく必要がある。スムーズな移行に向け、継続する事業と改善する事業の精選も必要である。		
学校関係者評価	・生徒や保護者による学校評価は多くの項目で昨年度を上回る好評価を頂いた。コロナ禍で、学校の様子が見えなかなかな分らない保護者が評価をすることが困難で、未提出も多かった。一方、コロナ禍の影響で、学習面や生活面での不安や悩みを持たれている保護者も見られ、不登校生徒も微増傾向にある。まち懇の委員には学校の現状や生徒・保護者による学校評価等を書面でお伝えしている。令和4年の学校運営評議会の設置にも理解を示し、本校への地域としての協力・支援に前向きである。		
中期取組目標振り返り	○今年度はコロナ禍で、学校の教育活動の大幅な変更を余儀なくされ、様々な制約の中で苦慮した面が多かった。来年度は学校経営中期目標に沿った充実した活動を進めたい。○令和4年度緑園義務教育学校開校に向け、来年度はわかりやすく明確な学校教育目標の検討や学校運営協議会の設置準備、教員減減を見通した校務分掌の見直し、小中一貫教育事業の見直し等、様々な課題を整理し、今後の岡津中学校のあり方を検討していかなければならない。		